

影響の可能性が指摘されている外来生物の例（未定稿）

生態系、人の生命・身体及び農林水産業に係る影響の可能性が指摘されている外来生物について、平成14年8月の「移入種（外来種）への対応方針」に掲載された資料をもとに、「外来種ハンドブック（2002 生態学会編）」など最近の文献や海外での情報等を踏まえ、再整理したものである。

本資料は、今後の特定外来生物等の選定に当たっての便宜に資するため、検討のための素材として粗い精度の情報を取りまとめたものである。

影響の可能性が指摘されている外来生物(哺乳類)

目名	科名	和名	学名	生態系に係る影響				人の生命・ 身体に係る	農林水産業 に係る影響	備考
				捕食	競合・ 駆逐	環境等 の攪乱	遺伝的 な攪乱			
モグラ	ハリネズミ	ナミハリネズミ	<i>Erinaceus europaeus</i>							
サル	オナガザル	タイワンザル	<i>Macaca cyclops</i>						太平洋島嶼国などで問題	
		カクイザル	<i>Macaca fascicularis</i>							
		アカゲザル	<i>Macaca mulatta</i>							
	オマキザル	リスザル	<i>Saimiri sciureus</i>							
ネズミ	リス	キタリス	<i>Sciurus vulgaris</i>						国内に亜種(イゾリス)が生息 ヨーロッパ諸国などで問題 クリハリスの亜種 国内に亜種(イゾシリス)が生息 複数亜種が定着の可能性あり	
		トウブハイロリス	<i>Sciurus carolinensis</i>							
		タイワンリス	<i>Callosciurus erythraeus taiwanensis</i>							
		チョウセンシマリス	<i>Tamias sibiricus barberi</i>							
	ネズミ	マスカラット	<i>Ondatra zibethicus</i>							
		ナンヨウネズミ	<i>Rattus exulans</i>							
	ヌ-トリア	ヌ-トリア	<i>Myocastor coypus</i>							
ネコ	アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>						別種カクイアライグマが輸入さ れた可能性もあり	
	イタチ	フェレット	<i>Mustela furo</i>							
		チョウセンイタチ	<i>Mustela sibirica</i>							
		ミンク	<i>Mustela vison</i>							
ジャコウネコ	ジャワマンゲ-ス	<i>Herpestes javanicus</i>								
ウシ	シカ	キョン	<i>Muntiacus reevesi</i>						イギリスでニホンジカと交雑	
		アカシカ	<i>Cervus elaphus</i>							
カンガルー	クスクス	フクロギツネ	<i>Trichosurus vulpecula</i>						ニュージーランドで問題	

影響を与えるおそれについて文献等で指摘のあるもの
海外で影響を与えるおそれについて指摘があるもの

:日本Worst100
:世界Worst100

被害の可能性が指摘されている外来生物(鳥類)

目名	科名	和名	学名	生態系に係る被害				人の生命・ 身体に係る	農林水産業 に係る被害	備考
				捕食	競合・ 駆逐	環境等 の攪乱	遺伝的 な攪乱			
カモ	カモ	コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i>							
キジ	キジ	コウライキジ	<i>Phasianus colchicus karpowi</i>							
		インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>							
ハト	ハト	カラハト(ドハト)	<i>Columba livia</i>							
インコ	インコ	ホンセイインコ	<i>Psittacula krameri</i>						亜種ワカホンセイインコを含む	
スズメ	ヒヨドリ	シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis</i>						自然移入の可能性あり	
		シリアカヒヨドリ	<i>Pycnonotus cafer</i>							

チメドリ	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>							
	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>							
カエデチョウ	ホウコウチョウ	<i>Estrilda melpada</i>							
ムクドリ	インドハッカ	<i>Acridotheres tristis</i>							

影響を与えるおそれについて文献等で指摘のあるもの : 日本Worst100
 海外で影響を与えるおそれについて指摘があるもの : 世界Worst100

影響の可能性が指摘されている外来生物(両生類)

目名	科名	和名	学名	生態系に係る影響				人の生命・ 身体に係る	農林水産業 に係る影響	備考
				捕食	競合・ 駆逐	環境等 の攪乱	遺伝的 な攪乱			
カエル	ヒキガエル	オオヒキガエル	<i>Bufo marinus</i>							
	アカガエル	ウシガエル	<i>Rana catesbeiana</i>							
	アオガエル	シロアゴガエル	<i>Polypedates leucomystax</i>							

影響を与えるおそれについて文献等で指摘のあるもの : 日本Worst100
 海外で影響を与えるおそれについて指摘があるもの : 世界Worst100

影響の可能性が指摘されている外来生物(爬虫類)

目名	科名	和名	学名	生態系に係る影響				人の生命・ 身体に係る	農林水産業 に係る影響	備考
				捕食	競合・ 駆逐	環境等 の攪乱	遺伝的 な攪乱			
カメ	カミツキガメ	カミツキガメ	<i>Chelydra serpentina</i>							
		ワニガメ	<i>Macroclmys temmincki</i>							
	ヌマガメ	ミシシッピアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>							(は種として所載)
トカゲ	イクアナ	グリーンアノール	<i>Anolis carolinensis</i>							
		ブラウンアノール	<i>Anolis sagrei</i>							
	ナミヘビ	タイワンスジヘビ	<i>Elaphe taeniura friesi</i>							
		ミナミオオガシラ	<i>Boiga irregularis</i>							
	クサリヘビ	タイワンハブ	<i>Trimeresurus mucrosquamatus</i>							

影響を与えるおそれについて文献等で指摘のあるもの : 日本Worst100
 海外で影響を与えるおそれについて指摘があるもの : 世界Worst100

影響の可能性が指摘されている外来生物(魚類)

目名	科名	和名	学名	生態系に係る影響				人の生命・ 身体に係る	農林水産業 に係る影響	備考
				捕食	競合・ 駆逐	環境等 の攪乱	遺伝的 な攪乱			
コイ	コイ	オオタナゴ	<i>Acheliognathus macropterus</i>							
		タイリクハナダナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>							

		ソウキョ	<i>Ctenopharyngodon idellus</i>							
		アオウオ	<i>Mylopharyngodon piceus</i>							
ナマス'	ヒレナマス'	ウオ-キングキャットフィッシュ	<i>Clarias batrachus</i>							. 飼育されているが定着していない.
	イクトルルス	チャネルキャットフィッシュ	<i>Ictalurus punctatus</i>							
	ナマス'	ヨーロッパオオナマス'	<i>Silurus glanis</i>							飼育されているが定着していない.
ハイク	ハイク	ノーザンハイク	<i>Esox lucius</i>							飼育されているが定着していない.
サケ	サケ	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>							
		ブラウントラウト	<i>Salmo trutta</i>							
		カワマス	<i>Salvelinus fontinalis</i>							
		レイトラウト	<i>Salvelinus namaycush</i>							
カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>							
		グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>							
ヌスギ	アカメ	ナイルハ-チ	<i>Lates niloticus</i>							
	サンフィッシュ	ブル-ギル	<i>Lepomis macrochirus</i>							
		コクチバス	<i>Micropterus dolomieu</i>							
		オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>							
	カワスズメ	カワスズメ	<i>Oreochromis mossambicus</i>							
		ナイルティラピア	<i>Oreochromis niloticus</i>							
	タイワンドジョウ	カムルチ-	<i>Channa argus</i>							
		タイワンドジョウ	<i>Channa asiatica</i>							

影響を与えるおそれについて文献等で指摘のあるもの
 海外で影響を与えるおそれについて指摘があるもの

: 日本Worst100
 : 世界Worst100

被害の可能性が指摘されている外来生物(昆虫類)

目名	科名	和名	学名	生態系に係る被害				人の生命・ 身体に係る	農林水産業 に係る被害	備考
				捕食	競合・ 駆逐	環境等 の攪乱	遺伝的 な攪乱			
チョウ	ヒトリガ	アメリカシロヒトリ	<i>Hyphantria cunea</i>							
	アケハチョウ	ホソオチョウ	<i>Sericinus montela</i>							
	セセリチョウ	ハナナセセリ	<i>Erionota torus</i>							
	イラガ	ヒロヘリアオイラガ	<i>Parasa lepida</i>							
	キバガ	ジャガイモキバガ(ジャガイモガ)	<i>Phthorimaea operculella</i>							
	ハマキガ	ナシヒメシンクイ	<i>Grapholita molesta</i>							
	ヤガ	コドリガ オオタバコガ	<i>Cydia pomonella</i> <i>Helicoverpa armigera</i>							
ハエ	ハモグリハエ	トマトハモグリハエ	<i>Liriomyza sativae</i>							
		マメハモグリハエ	<i>Liriomyza trifolii</i>							
	ミハエ	ウリミハエ	<i>Bactrocera cucurbitae</i>							
		ミカンコミハエ	<i>Bactrocera dorsalis</i>							
		チチュウカイミハエ	<i>Ceratitits capitata</i>							

		クインスランドミバエ	<i>Bactrocera tryoni</i>							
	タマバエ	ヘシアンバエ	<i>Mayetiola destructor</i>							
ハチ	タマバチ	クリタマバチ	<i>Dryocosmus kuriphilus</i>							
	ミツバチ	アフリカミツバチおよびその交雑個体	<i>Apis mellifera scutellata</i> and their hybrids.							
		オオミツバチ	<i>Apis dorsata</i>							
		セイヨウオオマルハナバチ	<i>Bombus terrestris</i>							
		ハリナシバチ亜科	Meliponinae							
	アリ	アルゼンチンアリ	<i>Linepithema humile</i>							
アカカミアリ		<i>Salenopsis geminata</i>								
ヒアリ		<i>Solenopsis invicta</i>								
チビヒアリ(コカミアリ)		<i>Wasmannia auropunctata</i>								
コウチュウ	オサゾウムシ	ヤシオオオサゾウムシ	<i>Rhynchophorus ferrugineus</i>							
		カンショオサゾウムシ	<i>Rhabdoscelus obscurus</i>							
		シバオサゾウムシ	<i>Sphenophrus venatus</i>							
	ゾウムシ	イモゾウムシ	<i>Euscepes postfasciatus</i>							
		アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera postica</i>							
		イネミスゾウムシ	<i>Lissorhoptrus oryzophilus</i>							
		ヤサイゾウムシ	<i>Listroderes costirostris</i>							
	ミツクリゾウムシ	アリモドキゾウムシ	<i>Cylas formicarius</i>							
	ハムシ	コロラドハムシ	<i>Leptinotarsa decemlineata</i>							
	カミキリムシ	ツヤハダゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora glabripennis</i>							
	ゴミムシダマシ	オオツノコクヌストモドキ	<i>Gnathocerus cornutus</i>							
	テントウムシ	インゲンテントウ	<i>Epilachna varivestis</i>							
	クワガタムシ	ハラワンオオヒラタクワガタ	<i>Dorcus titanus palawanicus</i>							
		スマトラオオヒラタクワガタ	<i>Dorcus titanus titanus</i>							
	コガネムシ	タイワンカブト	<i>Oryctes rhinoceros</i>							
	カメムシ	ナガカメムシ	カンシャコバネナガカメムシ	<i>Caverellius saccharivorus</i>						
		アブラムシ	リンゴワタムシ	<i>Eriosoma lanigerum</i>						
			キナラカブレシ	<i>Cinara cupressi</i>						オオアブラムシの一種
コナカイガラムシ		バインナップルコナカイガラムシ	<i>Dysmicoccus brevipes</i>							
コナシラミ		ミカントケコナシラミ	<i>Aleurocanthus spiniferus</i>							
		タバココナシラミ	<i>Bemisia tabaci</i>							
		シルバリーフコナシラミ	<i>Bemisia argentifolii</i>							
		オンシツコナシラミ	<i>Trialeurodes vaporariorum</i>							
カタカイガラムシ		ルビロウムシ	<i>Ceroplastes rubens</i>							
ネアブラムシ		クリイガアブラムシ	<i>Moritziella castaneivora</i>							
マルカイガラムシ		アカマルカイガラムシ	<i>Aonidiella aurantii</i>							
		ヤノネカイガラムシ	<i>Unaspis yanonensis</i>							
ワタフキカイガラムシ		イセリアカイガラムシ	<i>Icerya purchasi</i>							
アザミウマ		アザミウマ	ハナアザミウマ	<i>Thrips hawaiiensis</i>						
			ミナミキイロアザミウマ	<i>Thrips palmi</i>						

	グラジ オラスアザミウマ	<i>Thrips simplex</i>							
	ネキアザミウマ	<i>Thrips tabaci</i>							
	ミカンキイロアザミウマ	<i>Frankliniella occidentalis</i>							
クダアザミウマ	カキクダアザミウマ	<i>Ponticulothrips diospyrosi</i>							

影響を与えるおそれについて文献等で指摘のあるもの
海外で影響を与えるおそれについて指摘があるもの

:日本Worst100
:世界Worst100

影響の可能性が指摘されている外来生物(昆虫以外の節足動物) その他の無脊椎動物については作業中

目名	科名	和名	学名	生態系に係る影響				人の生命・ 身体に係る	農林水産業 に係る影響	備考
				捕食	競合・ 駆逐	環境等 の攪乱	遺伝的 な攪乱			
ダニ	フシダニ	トマトサビダニ	<i>Aculops lycopersici</i>							
クモ	ジョウゴクモ	シドニ-ジョウゴクモ	<i>Atrax robustus</i>							
		キノホリジョウゴクモ	<i>Hadronyche formidabilis</i>							
		ハラゴロジョウゴクモ	<i>Hadronyche infensus</i>							
	オオツチクモ	タランチュラ類の一部	<i>Harpactirella</i> spp.						約14種	
	シホクモ	クロドクシホクモ (ハラクロドクシホクモ)	<i>Phoneutria nigriventer</i>							
		ドクシホクモ	<i>Phoneutria fera</i>							
		ブラジルドクシホクモ	<i>Cupiennius salei</i>							
イトクモ	イトクモ属の一部	<i>Loxosceles</i> spp.						ドクイトクモ等6種		
ヒメクモ	ハイイロゴケクモ	<i>Latrodectus geometricus</i>								
	セアカゴケクモ	<i>Latrodectus hasseltii</i>								
サソリ	コガネサソリ	チャゴロサソリ	<i>Heterometrus cyaneus</i>							
	キョクトウサソリ	<i>Androctonus</i> 属の一部	<i>Androctonus</i> spp.						イエロ-ファットテ-ルスコーピオン等8種	
		<i>Buthus</i> 属の一部	<i>Buthus</i> spp.						チチュウカイサソリ等15種	
		<i>Centruroides</i> 属の一部	<i>Centruroides</i> spp.						フロリダハ-クスコーピオン等55種	
		<i>Hottentotta</i> 属の一部	<i>Hottentotta</i> spp.						サウスアフリカンゴ-ルデンスコーピオン等19種	
		<i>Mesobuthus</i> 属の一部	<i>Mesobuthus</i> spp.						キョクトウサソリ等14種	
		<i>Parabuthus</i> 属の一部	<i>Parabuthus</i> spp.						ジャイアントデ-スコーピオン等14種	
		<i>Rhopalurus</i> 属の一部	<i>Rhopalurus</i> spp.						12種	
	<i>Tityus</i> 属の一部	<i>Tityus</i> spp.						143種		
Liochelidae	<i>Hemiscorpius</i> 属の一部	<i>Hemiscorpius</i> spp.						6種		
十脚	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>							
	ザリガニ	ウチダザリガニ	<i>Pacifastacus leniusculus</i>						亜種タンカイザリガニを含む	
	イワガニ	チュウコクモクスガニ	<i>Eriocbeir sinensis</i>						欧米で問題となっている	

	ワタリガニ	ミドリガニ	<i>Carcinus maenas</i>								アメリカなどで問題
		チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>								
ミジンコ	オオメジンコ	セルコバシス・ペンゴイ	<i>Cercopagis pengoi</i>								プランクトンの捕食

影響を与えるおそれについて文献等で指摘のあるもの
海外で影響を与えるおそれについて指摘があるもの

:日本Worst100
:世界Worst100

国内の外来種(維管束植物)の影響

分類	科名	和名	学名	生態系への影響				農林水産業への影響	人体・生命への影響	備考
				捕食	競合・駆逐	環境等の攪乱	遺伝的な攪乱			
シダ植物	アカウキクサ	アメリカアカウキクサ	<i>Azolla caroliniana Willd.</i>							
	サンショウモ	オオサンショウモ	<i>Salvinia molesta Mitch.</i>							
	タテ	エゾノギンギシ	<i>Rumex obtusifolius L. var. agrestis (Fries) Celak</i>							
	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana L.</i>							根に有毒なアルカロイドを含む。独特な臭いがあり家畜に有毒
	アカザ	ゴウシュウアリタソウ	<i>Chenopodium pumilio R. Br.</i>							
	ヒユ	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides Griseb.</i>							
		ハリビユ	<i>Amaranthus spinosus L.</i>							家畜が大量に食べると有毒
	スイレン	ハゴロモモ	<i>Cabomba caroliniana A. Gray</i>							
		ハルザキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris R. Br.</i>							アレロパシ-作用 飼料に混入すると牛乳が異常風味
		カラクサナズナ	<i>Coronopus didymus (L.) Smith</i>							
		オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale R. Br.</i>							
	マメ	イタチハキ	<i>Amorpha fruticosa L.</i>							土壌窒素の蓄積
		キンネム	<i>Leucaena leucocephala (Lam.) de Wit</i>							土壌窒素の蓄積、小笠原の固有種との競合
		ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia L.</i>							土壌窒素の蓄積
	カタハミ	ムラサキカタハミ	<i>Oxalis corymbosa DC.</i>							
	アオイ	イチビ	<i>Abutilon theophrasti Medik.</i>							飼料に混入すると牛乳が異常風味
		ケナフ	<i>Hibiscus cannabinus L.</i>							栽培用に導入
	ウリ	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus L.</i>							
	アカバナ	メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis L.</i>							アレロパシ-作用
	アリノトウグサ	オオアサモ	<i>Myriophyllum brasiliense Cambess.</i>							水路の水流の悪化
		ドクニンジン	<i>Conium maculatum L.</i>							有毒物質を含む。薬用として導入
		アラジルチドメグサ	<i>Hydrocotyle ranunculoides L.f.</i>							
双子葉類・合弁花類	ミツガシワ	ハナガカブタ	<i>Nymphoides aquatica Ktze.</i>							
	ヒルガオ	セイヨウヒルガオ	<i>Convolvulus arvensis L.</i>							輸入農産物に混入
		アメリカネナンカスラ	<i>Cuscuta pentagona Engelm.</i>							寄生植物、輸入農産物に混入
		マルハルコウ	<i>Ipomoea coccinea L.</i>							観賞用に導入
	ナス	ワルナスビ	<i>Solanum carolinens L.</i>							有毒植物
	ゴマノハグサ	オトメアゼナ	<i>Bacopa monnieri Pennell</i>							
		アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia Pennell</i>							

		オオカワチシャ	<i>Veronica angallis-aquatica L.</i>						
	ハマウツボ	ヤセウツボ	<i>Orobanche minor Sm.</i>						寄生植物
		ハラオオハコ	<i>Plantago lanceolata L. var. lanceolata</i>						
	キク	ネハリノキク	<i>Aster novae-angliae</i>						
		アタクサ	<i>Ambrosia elatior L.</i>						アレロハシ-作用
		オオアタクサ	<i>Ambrosia trifida L.</i>						アレロハシ-作用
		カミツレモドキ	<i>Anthemis cotula L.</i>						牛乳の異臭の原因
		ハイイロヨモギ	<i>Artemisia sieversiana Willd.</i>						
		アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa L.</i>						
		タチアワユキセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i>						
		アメリカオニアサミ	<i>Cirsium vulgare (Savi) Ten.</i>						鋭い棘が家畜に害
		アレチノキク	<i>Conyza bonariensis (L.) Cronquist</i>						
		オオアレチノキク	<i>Conyza sumatrensis (Retz.) Walker</i>						アレロハシ-作用
		オオキンケイキク	<i>Coreopsis tinctoria Nutt.</i>						
		ハルシャキク	<i>Coreopsis tinctoria Nutt.</i>						
		アワコガネキク	<i>Dendranthema boreale (Makino) Kitam.</i>						
		ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis L. var. canadensis</i>						
		ハルシオン	<i>Erigeron philadelphicus L. var. philadelphicus</i>						
		ミスヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides DC.</i>						
		キクイモ	<i>Helianthus tuberosus L.</i>						
		アタナ	<i>Hypochoeris radicata L.</i>						
		オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata L. var. laciniata</i>						奥日光等の在来植物との競合
		セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima L.</i>						
		オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea Aiton var. leiophylla Fernald</i>						
		ヒメシヨオン	<i>Stenactis annuus (L.) Cass.</i>						アレロハシ-作用
		外来種タネホホ種群	<i>Taraxacum officinale agg.</i>						
		オオオナモミ	<i>Xanthium canadense L.</i>						アレロハシ-作用
単子葉植物	オモダカ	ナガハオモダカ	<i>Sagittaria graminea Michx.</i>						
	トチカガミ	オオカナダモ	<i>Egeria densa Planch.</i>						アレロハシ-作用
		コカナダモ	<i>Elodea nuttallii (Planch.) H. St. John</i>						アレロハシ-作用
	ミスアオイ	ハイホテイアオイ	<i>Eichhornia azurea Kunth</i>						
		ホテイアオイ	<i>Eichhornia crassipes (Mart.) Solms-Laub.</i>						
	アヤメ	キショウブ	<i>Iris pseudoacorus L.</i>						
	イグサ	ココメ	<i>Juncus sp.</i>						
		ハルカヤ	<i>Anthoxanthum odoratum L. subsp. odoratum</i>						
		カラスムギ	<i>Avena fatua L.</i>						アレロハシ-作用
		イヌムギ	<i>Bromus catharticus Vahl.</i>						
		カモガヤ	<i>Dactylis glomerata L.</i>						
		シハムギ	<i>Elymus repens (L.) Gould var. repens</i>						
		シナダレスメカヤ	<i>Eragrostis curvula (Schrud.) Nees</i>						
		オニウシノケサ	<i>Festuca arundinacea Sch.</i>						

		シラゲカヤ	<i>Holcus lanatus L.</i>							
		ネスミムキ	<i>Lolium multiflorum Lam.</i>							穎果は有毒
		キシユウスメルヒ	<i>Paspalum distichum L. var. distichum</i>							
		オオアワガエリ	<i>Phleum pratense L.</i>							
		セイハンモロコシ	<i>Sorghum halepense (L.) Pers.</i>							
サトイモ		ホタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes L. var. cuneata Engler</i>							水路の水流阻害
カヤツリグサ		シヨクヨウカヤツリ	<i>Cyperus esculentus L.</i>							アレロパシー作用

国内で影響が確認されたもの
 海外で影響が確認、または国内でも可能性がある

:日本Worst100
 :世界Worst100

被害の可能性が指摘されている外来生物(維管束植物以外の植物)

分類	科名	和名	学名	生態系に係わる影響				農林水産業に係わる	人の生命・身体に係わる	備考
				捕食	競合・ 駆逐	環境等の 攪乱	遺伝的な 攪乱			
	イワツタ	仔イワツタ	<i>Caulerpa taxifolia</i>							

影響を与えるおそれについて文献等で指摘のあるもの
 海外で影響を与えるおそれについて指摘があるもの

:日本Worst100
 :世界Worst100

影響の可能性が指摘されている外来生物の例（未定稿）に係る主な参考文献

哺乳類

一般（複数種）

- 日本生態学会（編）村上興正・鷲谷いづみ（監）（2002）外来種ハンドブック．地人書簡．
千葉県立中央博物館（2004）千葉の外来哺乳類 - 春の展示「持ち込まれたケモノたち」解説書，14p
北海道（2004）北海道の外来種リスト-北海道ブルーリスト2004- 41pp.
池田透（1998）移入哺乳類の現状と対策，遺伝，52:37-41.
Long, J.L. (2003) Introduced Mammals of the world. CABI Publishing, 589p .
日本哺乳類学会 - 哺乳類保護管理専門委員会，（1999）移入哺乳類への緊急対策に関する大会決議．哺乳類科学，39(1)：115-129 .
自然環境研究センター（1998）野生化哺乳類実態調査報告書，161p.
田村典子（2001）ニホンリスの保全ガイドラインつくりに向けて，哺乳類科学 41：137-148.

アライグマ

- 堀繁久・的場洋平（2001）移入種アライグマが補食していた節足動物、北海道開拓記念館研究紀要,29：67-76.
池田透（2000）移入アライグマの管理に向けて．保全生態学研究 5(2):159-179 .
Kaufmann, J. H. (1982) . Raccoon and allies. Pages 567-585 in J. A. Chapman and G. A. Feldhamer, eds. Wild mammals of North America: biology, management and economics. The Johns Hopkins Univ. Press, Baltimore, Maryland.
Zeweloff, S. I (2002) Raccoons-A Natural History, 240p, UBC Press.

マカク属

- Carter and Bright. (2002) Habitat refuges as alternatives to predator control for the conservation of endangered Mauritian birds. In *Turning the tide: the eradication of invasive species*: 71-78. Veitch, C.R. and Clout, M.N.(eds). IUCN SSC Invasive Species Specialist Group. IUCN. Gland. Switzerland and Cambridge. UK .
Cheke, A.S. (1987) An ecological history of the Mascarene Islands, with particular reference to extinctions and introductions of land vertebrates. In Diamond, A W (ed.). *Studies of Mascarene Island birds*, pp. 5-89. Cambridge, Cambridge University Press .
小山直樹（1984）カニクイザルの社会行動，モンキー200：6-14 .
川本芳ほか（1999）和歌山県におけるニホンザルとタイワンザルの混血事例，霊長類研究 15:53-60.
Hsu, M.J., Govindasamy, A. and Jin-Fu, L (2001) Birth Seasonality and Interbirth Intervals in Free-ranging Formosan Macaques, *Macaca cyclopis*, at Mt. Longevity, Taiwan, *Primates*, 42:15-26.
Kemp, N.J. and Burnett, J.B. (2003). Final Report: A Biodiversity Risk Assessment and Recommendations for Risk Management of Long-tailed Macaques (*Macaca fascicularis*) in New Guinea. December 2003. Washington, DC: Indo-Pacific Conservation Alliance.

- 田中均 (1973) アカゲザルの混血児に思う, モンキー 131/132:6-11
- 白井啓 (1999) 下北半島におけるタイワンザルの現状, モンキー219・220:20-24.
- 萩原光 (2002) 2002年度霊長類学会 自由集会
- 和田一雄 (1973) ヒマラヤ山麓のアカゲザル, モンキー 131/132

ジャワマンゲース

- 阿部慎太郎 (1994) 沖縄島の移入マンゲースの現状 - 沖縄島、奄美大島の在来種保護のためのマンゲース駆除策を考える -, チリモス, 5:34-43.
- 小倉剛(2001)沖縄島に移入されたマンゲースの管理に関する基礎的研究 - とくに種の道程、被害状況、成長、繁殖、駆除方法について -, 名古屋大学大学院農学研究科博士論文, 183+3pp
- 石井信夫 (2003) 奄美大島のマンゲース駆除事業-特に生息数の推定と駆除の効果について, 保全生態学研究, 8, 73-82.
- 環境省・鹿児島県・自然環境研究センター(2000)平成11年度島嶼地域の移入駆除・制御モデル事業(奄美大島:マンゲース)調査報告書. 115pp.
- 名桜大学総合研究所観光環境部(2002)移入動物に関する研究 - 名護市におけるマンゲースの分布 -, 72pp
- Simberloff et al. (2003) Character displacement and release in the small indian mongoose, *Herpestes javanicus*, Ecology, 81:2086-2099
- 自然環境研究センター(2002) 移入種(マンゲース)駆除調査報告書.

リス類

- Bertolino, S. and Genovesi, P. (2003) Spread and attempted eradication of the gray squirrel (*Sciurus carolinensis*) in Italy, and consequences for the red squirrel (*Sciurus vulgaris*) in Eurasia, Conservation Biology, 19:351-358.
- Convention of the Conservation of European Wildlife and Natural Habitat (2003) European Strategy on Invasive Alien Species, Strasbourg, Council of Europe, 48p.
- 小野衛 (2001) 鎌倉のタイワンリス, かながわの自然 63:12-13
- Oshida, T and Matsuda, R. (2000) Phylogeny and zoogeography of six species of genus *Sciurus*, inferred from cytochrome b gene sequences, Zool. Sci. 17:405-409.
- 田村典子(2004) 神奈川県における外来種タイワンリスの個体数増加と分布拡大, 保全生態学研究 9:37-44.

ネズミ、イタチなど

- Baker S J and Clarke C N (1988) Cage trapping coypus (*Myocastor coypus*) from a wetland habitat in East Anglia. Journal of Applied Ecology, 25, 49-62.
- Gosling L M and Baker S J (1989). The eradication of muskrats and coypus from Britain. Biological Journal of the Linnean Society, 38, 39-51.
- 北海道生活環境部自然保護課 (1985) 野生動物分布等実態調査報告書-野生化ミンク-, 北

海道生活環境部自然

北海道猟友会 (1982) 野生ミンクの生態と被害調査、猟友会報：北海道猟友会, 19:22-26.

三浦信悟 (1970) 分布から見たヌートリアの帰化・定着 岡山県の場合、哺乳動物学雑誌 6:231-237.

Sasaki, H. and Ono, Y. (1994) Habitat use and selection of the Siberian weasel *Mustela sibirica coreana* during the non-mating season. J. Mamm. Soc. Japan, 19:21-32.

佐々木浩(1996) ニホンイタチとチョウセンイタチ,日本動物大百科1 哺乳類,pp128-131.

シカ類

浅田正彦・落合啓二・長谷川雅美 (2000) 房総半島及び伊豆大島におけるキョンの帰化・定着状況, 千葉中央博自然誌研究報告 6:87-94.

千葉県環境生活部自然保護課・房総のシカ調査会(2001)千葉県イノシシ・キョン管理対策調査報告書 1. 千葉県環境生活部自然保護課・房総のシカ調査会

Flueck, W.T, J.M. Smith-Flueck, and K.A. Rüegg (1995) Management of introduced red deer in Patagonia. (J.A. Bissonette and P.R. Krausman, eds.). Integrating people and wildlife for a sustainable future. Proceedings of the first International Wildlife Management Congress. The Wildlife Society, Bethesda, Md. 525-528 proceedings.

Lowe, V.P.W. and Gardiner A.S. 1975. Hybridization between Red deer (*Cervus elaphus*) and Sika deer (*Cervus nippon*) with particular reference to stocks in N.W. England. J. Zool. 177:553-566.

フクロギツネ

Ji. W and Clout,M (2002) The common brushtail possum in New Zealand an unfinished battle with an alien invasive marsupial. Biodiversity Science 10, 98-105.

Parliamentary Commissioner for the Environment (2000) Caught in the headline, New Zealander s reflections on possums, control options, and genetic engineering, 149p.

鳥類

一般（複数種）

- 日本生態学会（編）村上興正・鷲谷いづみ（監）（2002）外来種ハンドブック．地人書簡．
江口和洋・天野一葉（2000）移入鳥類の諸問題．保全生態学研究, 5:131-148.
大畑孝二（1990）ウトナイ湖の鳥類保護に関する提言, Strix, 9:191-199.

コブハクチョウ

- 大畑孝二（1987）ウトナイ湖におけるコブハクチョウの生息状況について, Strix, 6:80-85.

ガビチョウ

- 川上和人（2002）移入種ガビチョウの野生化, 樹木医学研究, 6:27-28.
佐藤重穂（2000）九州北部におけるガビチョウ *Garrulax canorus* の野生化, Jpn. J. Ornithol. 48:233-235

シロガシラ

- 金城常雄・西村真・中村和雄（1987）沖縄本島におけるシロガシラの侵入と被害の状況, 植物防疫, 41:428-432.
金城常雄（1998）沖縄本島におけるシロガシラの生態と被害防止対策, 植物防疫, 52:397-402.

コウライキジ

- 北海道環境科学研究センター（1995）コウライキジ分布調査報告書．

シリアカヒヨドリ

- Meyer, J. Y. (2000) Invasive plants in the Pacific Islands. In: The Invasive Species in the Pacific: A Technical Review and Draft Regional Strategy. Sherley, G. (tech. ed). Published in June 2000 by the South Pacific Regional Environment Programme, 197pp.

インドハッカ

- Tidemann, C. R (1999) Mitigation of the impact of mynas on biodiversity and public amenity, Australian National University, 11pp.
Yap, A. M., N. S. Sodhi and B.W. Brook (2002). Roost characteristics of invasive mynas in Singapore .Journal of Wildlife Management 66: 1118-1127.

両生爬虫類

一般（複数種）

- 日本生態学会（編）村上興正・鷲谷いづみ（監）（2002）外来種ハンドブック．地人書簡．
- 日本林業技術協会（2002）平成14年度小笠原地域自然再生推進調査報告書．
- 日本林業技術協会（2003）平成15年度小笠原地域自然再生推進計画調査報告書．
- 太田英利（1995）琉球列島における爬虫・両生類の移入， 沖縄島嶼研究,13:63-78

グリーンアノール（ブラウンアノール）

Campbell, T. S.(1999) Consequences of the Cuban brown anole invasion: it's not easy being green. *Anolis Newsletter* V:12-21.

荻部治紀(2004) 小笠原固有のトンボ類の現状 - トンボ類はいつごろ、なぜ減ったか? - . 小笠原における昆虫相の変遷 - 海洋島の生態系に対する人為的影響 - , 神奈川県立生命の星・地球博物館年報,10:31-46.

荻部治紀・須田真一(2004) グリーンアノールによる小笠原の在来昆虫への影響（予報）. 小笠原における昆虫相の変遷 - 海洋島の生態系に対する人為的影響 - , 神奈川県立生命の星・地球博物館年報,10:21-30.

鈴木晶子(1996) 小笠原諸島母島の移入種グリーンアノールと在来種オガサワラトカゲとの資源分割. 奈良女子大学修士論文, 25pp.

高桑正敏・須田真一(2004) オガサワラシジミの衰亡とその要因 - . 小笠原における昆虫相の変遷 - 海洋島の生態系に対する人為的影響 - . 神奈川県立生命の星・地球博物館年報,10:47-54.

オオヒキガエル

Covacevich and Archer (1975) The distribution of the cane toad, *Bufo marinus* and its effects on indigenous vertebrates. *Memoirs of the Queensland Museum*. 17:305-310.

自然環境研究センター（2003）平成14年度西表島移入種対策事業（オオヒキガエル）調査報告書,57pp.

ウシガエル

Hirai, T. (2004) Diet composition of introduced bullfrog, *Rana catesbeiana*, in the Mizorogaike Pond of Kyoto, Japan, *Ecological Research*, 19:375-380

長谷川雅美(1999) ウシガエルの秘められた歴史．平成十一年度特別展カエルのきもち展示解説書, 100-107.

ヘビ類

勝連盛輝・西村昌彦・香村昂男(1996) 沖縄諸島において本来の分布地とは異なる地域で採集されたヘビ．沖縄生物学会誌, 34:1-7.

西村昌彦・赤嶺博行（2002）沖縄島南部において1976年に逃亡後定着した侵入種サキシマハブの分散範囲 2002年時点の予備的な調査の結果, 沖縄県衛生環境研究所報,36:89-92.

Fritts, T. (1988) The brown tree snake, *Boiga irregularis*, a threat to Pacific Islands. U.S. Fish and Wildlife Service Biological Reports 88(31). 36pp.

Savidge, J. A. 1987. Extinction of an island forest avifauna by an introduced snake. *Ecology* 68: 660-668

カメ類

小林頼太(2003) カミツキガメ. 滋賀県琵琶湖博物館企画展示資料: 74-75.

矢部 隆(2003) ミシシippアカミミガメ. 滋賀県琵琶湖博物館企画展示資料: 72-73.

魚類

一般（複数種）

DEFRA www.defra.gov.uk (イギリス環境・食品・地域庁)

FishBase www.fishbase.org

Frimodt, C. (1995) Multilingual illustrated guide to the world's commercial coldwater fish. Fishing News Books, Osney Mead, Oxford, England. 215 pp

川那部浩哉・水野信彦・細谷和海（編・監）(2002) 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚（改訂版）. 山と溪谷社 . 719 pp

日本生態学会（編） 村上興正・鷺谷いづみ（監）(2002) 外来種ハンドブック . 地人書簡 . 390 pp

Nelson, J.S. (1995) Fish of the World, 3rd edition. John Wiley & Sons Inc. 624 pp

Maitland, P.S. & R.N. Campbell (1992) Freshwater fishes of the British Isles. HarperCollins Publishers, London. 368 pp

Page, L.M. and Burr, B.M (1991) A field guide to freshwater fishes of North America north of Mexico. Houghton Mifflin Company, Boston. 432 pp

タナゴ類

赤井 裕・秋山信彦・鈴木伸洋・増田 修 (2004) タナゴのすべて マリン企画 159 pp

アサザプロジェクトのHP <http://www.kasumigaura.net/asaza/opinion/gai-raisyu0304/gai-raisyu0325.html>

ピーシーズ（編）(1993) 熱帯魚・水草1400種図鑑. 368 pp

ピーシーズ（編・監）(2004) 熱帯魚・水草2100種図鑑 . ピーシーズ . 510 pp

誠文堂新光社（編）(2003) 熱帯魚・水草スーパーカタログ2003～2004 . 188 pp

滋賀県立琵琶湖博物館 <http://www.lbm.go.jp/index.html>

タイワンドジョウ類

Courtenay Jr, W.R. & J.D. Williams (2004) Snakeheads (Pisces, Channidae)- A biological synopsis and risk assessment. U. S. Geological Survey Circular 1251.

パイク類

Crossman, E.J. (1996) Taxonomy and distribution. p. 1-11. In J.F. Craig (ed.) Pike biology and exploration. Chapman and Hall, London. 298 pp

ブラックバス類

環境省（編）(2004) ブラックバス・ブルーギルが在来生物群集及び生態系に与える影響 . 財団法人 自然環境研究センター . 226 pp

中尾 博行（2003）ブルーギル 何でも食べてどんどん増える厄介者-. 滋賀県琵琶湖博物館企画展示資料: 80-81 . 滋賀県立琵琶湖博物館 <http://www.lbm.go.jp/index.html>

Morrow, J.E. (1980) The freshwater fishes of Alaska. University of B.C. Animal Resources Ecology

Library. 248 pp

全国内水面漁業協同組合連合会 (1992) ブラックバスとブルーギルのすべて . 外来魚対策検討委託事業
報告書 . 221 pp

マス類

鷹見達也・青山智哉 (1999) 北海道におけるニジマスおよびブラウントラウトの分布 野生動物保護
4:41-48

ナマズ類

Townsend, C.R. & M. J. Winterbourn (1992) Assessment of the environmental risk posed by an exotic
fish: the proposed introduction of Channel catfish (*Ictalurus punctatus*) to New Zealand.
Conservation Biology 6: 273-282.

昆虫類

ホソオチョウ

藤井恒（2002）ホソオチョウ．日本生態学会編「外来種ハンドブック」p. 157. 地人書館.
日本鱗翅類学会（編），「日本産蝶類の衰亡と保護第4集」

ミツバチ科

Ruttner, F. (1987) Biogeography and taxonomy of honeybees. 284pp. Springer-verlag.

アフリカミツバチ

Camazine, S. et al. (1988) The Africanized Honeybee. *American Scientist*. 76: 465-471.
Page, R. E., Jr. (1998) Blessing or curse? Varroa mite impacts Africanized bee spread and beekeeping. *California Agriculture*. 52(2): 9-13.
Ratnieks, F. and Visscher, P.K (1996) Sinaloan beekeepers adapt pollination to Africanized bees. *California Agriculture*. 50(4): 24-28.
Rinderer, T. E. et al. (1993). Africanized bees in the U.S. *Scientific American*. 269: 84-90. (邦訳：T.E.リンダラー他（石井実訳），1994. 米国に進入したキラビー．日経サイエンス2月号.)
Sheppard, W. S. et al. (1991) Gene flow between African- and European-derived honey bee populations in Argentina. *Nature*. 349: 782-784.

オオミツバチ

松浦誠（1983）熱帯のスズメバチとミツバチ - スマトラの自然と虫と - 4. インセクトリウム, 20: 112-117.
松浦誠（2003）都市における社会性ハチ類の生態と防除 . ミツバチ類の発生状況. セイヨウミツバチからニホンミツバチへの交代, そしてオオミツバチまでも!. ミツバチ科学, 24(3): 97-109.
トーマス・D・スィーレイ (Seeley, Thomas D: 大谷剛訳) (1989) ミツバチの生態学: 社会生活での適応とは何か. 文一総合出版. 256 pp. (コピーはp.180-206「熱帯産ミツバチの行動生態学」のみ)
Sheeley, T. D. et al. (1982) Colony defence strategies of the honeybees in Thailand. *Ecol. Mon.*, 52: 43-63.

ハリナシバチ

Wille, A. (1983) Biology of the stingless bees. *Ann. Rev. Ent.*, 28: 41-64.
Johnson, L. K. and Hubbel, S. P. (1974) Aggression and competition among stingless bees: field studies. *Ecology*, 55: 120-127.

セイヨウオオマルハナバチ

浅田真一ほか（1997）セイヨウオオマルハナバチを取り巻く諸問題の解決に向けて. 保全生態学研究, 2: 105-113.
五箇公一（1998）侵入生物の在来生物相への影響 セイヨウオオマルハナバチは日本在来マルハナバチの

- 遺伝子組成を汚染するか？ 日本生物地理学会会報, 53: 91-101.
- 五箇公一ほか (2000) 輸入されたセイヨウオオマルハナバチのコロニーより検出された内部寄生性ダニとその感染状況. 日本応用動物昆虫学会誌. 44: 47-50.
- Goka, K. et al. (2001) Bumblebee commercialization will cause worldwide migration of parasitic mites. *Molecular Ecology*, 10: 2095-2099.
- 細田裕貴子 (1999) 島根県からセイヨウオオマルハナバチ(*Bombus terrestris*)の自然巣を発見. 保全生態学研究, 4: 207-208.
- 保全生態学研究会 (1997) マルハナバチ一斉調査について/セイヨウオオマルハナバチの帰化問題に関するインターネットを用いた情報収集. 保全生態学研究, 2: 36-41.
- 保全生態学研究会 (2002) マルハナバチ一斉調査 (第五報). 保全生態学研究, 7(1): 19-23.
- 加藤真 (1993) セイヨウオオマルハナバチの導入による日本の送粉生態系への影響. ミツバチ科学. 14: 110-114.
- 松村千鶴ほか (2002) 北海道沙流郡門別町および平取町におけるセイヨウオオマルハナバチ*Bombus terrestris* L.の7年間のモニタリング. 保全生態学研究, 7(1): 39-50.
- 松村千鶴ほか (2003) マルハナバチ一斉調査 (第六報). 保全生態学研究, 8: 175-180.
- 松村千鶴ほか (2004) 北海道日高地方で発見されたセイヨウオオマルハナバチ*Bombus terrestris* L.)の自然巣における高い増殖能力. 保全生態学研究, 9: 93-101.
- 松村 千鶴・鷲谷いづみ (2003) 在来のマルハナバチ類の競争と植物の受粉阻害. 第11回企画展示 外来生物 つれてこられた生き物たち. 滋賀県琵琶湖博物館. pp. 90-91.
- 中島真紀ほか (2004) 北海道勇払郡武川町におけるセイヨウオオマルハナバチ*Bombus terrestris* (Linnaeus(sic!))の営巣状況とエゾオオマルハナバチ*B. hypocrita sapporensis* Cockerellの巣に出入りするセイヨウオオマルハナバチの働き蜂に関する報告. 保全生態学研究. 9: 57-63.
- 西廣 淳ほか (1996) セイヨウオオマルハナバチの帰化問題について. 保全生態学研究, 1: 171-174.
- Thomson, J., (1997) 日本におけるセイヨウオオマルハナバチの野生化についてのコメント. 保全生態学研究, 2: 28-35.
- 鷲谷いづみ (1997) セイヨウオオマルハナバチが帰化したタスマニアでおこりつつあること. 保全生態学研究, 2: 104.
- 鷲谷いづみ (1998) 保全生態学からみたセイヨウオオマルハナバチの侵入問題. 日本生態学会誌, 48: 73-78.
- 鷲谷いづみ・松村千鶴 (2002) 日本生態学会編「外来種ハンドブック」p. 156. 地人書館.
- 鷲谷いづみほか (1997) マルハナバチ・ハンドブック. 文一総合出版. 50 pp.
- 米田昌浩. (2004) セイヨウマルハナバチは役に立つ害虫? 千葉県立中央博物館監修「あっ!ハチがいる!」p. 75-77. 昌文社出版.
- <website>
保全生態学研究会 HP
http://www003.upp.so-net.ne.jp/consecol/japanese/maruhana/index_maruhana.html

アリ類

アリ類データベース作成グループ. 日本産アリ類画像データベース

(<http://ant.edb.miyakyo-u.ac.jp/J/index.html>)

IUCN-ISSG. The Global Invasive Species Database (<http://www.issg.org/database/welcome/>)

<http://www.issg.org/database/species/ecology.asp?si=169&fr=1&sts=> アカカミアリ

<http://www.issg.org/database/species/ecology.asp?si=77&fr=1&sts=sss> ヒアリ

<http://www.issg.org/database/species/ecology.asp?si=127&fr=1&sts=> アルゼンチンアリ

<http://www.issg.org/database/species/ecology.asp?si=58&fr=1&sts=> チビヒアリ

Holway, D. A et al. (2002) The causes and consequences of ant invasions. *Ann. Rev. Ecol. Syst.*, 33: 181-233.

杉山隆史 (2000) アルゼンチンアリの日本への侵入. 応動昆. 44:127-129.

杉山隆史・伊藤文紀 (2002) アルゼンチンアリ. 日本生態学会編「外来種ハンドブック」p. 148. 地人書館.

アルファルファタコゾウムシ

末永博 (2002) アルゼンチンアリ. 日本生態学会編「外来種ハンドブック」p. 129. 地人書館.

クワガタムシ類

荒谷邦雄 (2002) クワガタムシ科における侵入種問題. 昆虫と自然, 37(3):4-7.

荒谷邦雄 (2002) 外来カブトムシ・クワガタムシ. 日本生態学会編「外来種ハンドブック」p. 158-159. 地人書館.

荒谷邦雄 (2003) クワガタムシ・カブトムシにおける移入種問題. 第11回企画展示 外来生物 つれてこられた生き物たち. 滋賀県琵琶湖博物館. pp. 94-97.

荒谷邦雄 (2003) ペットとして輸入される外国産コガネムシ上科甲虫の影響. 森林科学, 38: 21-32.

五箇公一 (2002) 輸入昆虫が投げかけた問題, 昆虫と自然, 37(3): 8-11.

五箇公一・小島啓史 (2002) クワガタムシ商品化がもたらす遺伝的攪乱の問題. 昆虫と自然, 37(11): 27-31.

五箇公一・小島啓史 (2003) クワガタムシ商品化がまねく種間交雑と遺伝的浸食. 昆虫と自然, 38(3): 6-12.

五箇公一・小島啓史 (2004) 外国産クワガタムシの生態リスクと外来生物法. 昆虫と自然, 39(11): 29-34.

Goka, K. et al., (2004) Biological invasion caused by commercialization of stag beetle in Japan. *Global Environmental Research*. 8(1): 67-74.

昆虫以外の無脊椎動物

一般（複数種）

天野洋ほか（1998）我が国に生息する植物寄生種ならびに捕食性ダニ類の在来性,千葉大園学報,52:187-196.

今泉忠明（1994）猛毒動物の百科,データハウス, 175pp.

今泉忠明 監修（1996）凶解猛毒動物マニュアル, 203pp.

岩崎敬二・木村妙子・木下今日子・山口寿之・西川輝昭・西栄二郎・山西良平・林育夫・大越健嗣・小菅丈治・鈴木孝男・逸見泰久（2004）日本における海産生物の人為的移入と分散：日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から,日本ベントス学会誌,59:22-44.

西栄二郎・加藤哲哉（2004）環形動物多毛類の移入と移出の現状, 日本ベントス学会誌,59:45-57.

ザリガニ類

斎藤和範（1996）北海道におけるザリガニ類の分布とその現状,北方林業,48：77-81.

サソリ類

Polis,G.A.(1990) The Biology of Scorpion,Stanford University Press,587pp.

Rein, J.O and McWest,K. Scorpions of medical importance, <http://www.ub.ntnu.no/scorpion-files/medical.php>.

セアカゴケグモ

夏原由博（1996）セアカゴケグモの生態と刺咬傷への対応,生活衛生,40:13-21.

植物

一般（複数種）

- 日本生態学会（編）村上興正・鷲谷いづみ（監）（2002）外来種ハンドブック．地人書簡．
- 清水建美（2003）日本の帰化植物．平凡社．
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七（2001）日本帰化植物写真図鑑．全国農村教育協会．
- 浅井康宏（1993）緑の侵入者たち（帰化植物のはなし）．朝日選書．朝日新聞社．
- 山岡文彦（1975）帰化植物100種 最も身近な帰化植物100種の渡来、形態、生産地、分布．ニューサイエンス社．
- 外来種影響・対策研究会（2001）河川における外来種対策の考え方とその事例 - 主な侵略的外来種の影響と対策 - ．リバーフロント整備センター．
- 多田多恵子（2002）身近なエイリアンたちの横顔, プランタ, 83 : 31-37.
- Miyawaki S. and Washitani, I (2004) Invasive Alien Plant Species in Riparian Areas of Japan: The Contribution of Agricultural Weeds, Revegetation Species and Aquacultural Species . Global Environmental Research , 8 (1): 89-101
- 竹松哲夫・一前宣正（1987）世界の雑草 合弁化類．全国農村教育協会．
- 竹松哲夫・一前宣正（1993）世界の雑草 離弁花類．全国農村教育協会．
- 竹松哲夫・一前宣正（1997）世界の雑草 単子葉類．全国農村教育協会．
- 日本植物調節剤研究協会・中華人民共和国農業部農薬検定所（2000）中国（中華人民共和国）雑草原色図鑑．全国農村教育協会．
- 農林水産技術会議事務局（1998）研究成果326 強害帰化植物の蔓延防止技術の開発．農林水産技術会議事務局．
- 草薙得一・近内誠登・芝山秀次郎（1994）雑草管理ハンドブック．朝倉書店

水草関係

- 角野康郎（1994）日本水草図鑑．文一総合出版．
- 角野康郎（1996）帰化植物による在来の自然への影響 - 帰化水草を中心に - 関西自然保護機構会報, 18 (2): 115-120 .
- 角野康郎（2001）侵入する水生植物 移入・外来・侵入種, 105-118 . 築地書館 .
- 角野康郎（2004）水草ブームと外来水生植物 用水と廃水, 46 (1): 63-68 . 角野康郎, 1996 . ホテイアオイ 百万ドルの雑草 植物の生き残り作戦 平凡社自然叢書31, 168-178.
- 生嶋功（1980）コカナダモ・オオカナダモ - 割り込みと割り込まれ 日本の淡水生物 - 侵略と攪乱の生態学 - , 56-62 . 東海大学出版会 .
- 白岩卓巳（2000）絶滅危惧植物水生シダは生きる .
- Buckingham , G.R. (1997) Exotic weeds and their biocontrol agents in aquatic ecosystems in the United States . Biological Invasion of Ecosystem Pests and Beneficial Organism , 211-223 . National Institute of Agro-Environmental Sciences .

地域事例

土田勝義 (1988) 霧が峰高原のヒメジョオン類の動態 . 日本の植生 侵略と攪乱の生態学 , 160-180 . 東海大学出版会 .

土田勝義 (2002) 霧が峰高原におけるヒメジョオン類の生態と駆除について . 環境情報科学論文集 , 16 : 109-114 .

富山清升 (1998) 小笠原諸島の移入植物による島嶼生態系への影響 . 日本生態学会誌 , 48 : 63-72 .

吉田圭一郎 (2001) 移入植物ギンネムは在来植生にどんな影響を与えるのか? 小笠原諸島母島の事例から . 植生環境学 - 植物の生育環境の謎を解く - , 189-200 . 古今書院 .

豊田武司 (2003) 開拓と外来種による在来植生の駆逐 . 小笠原植物図譜 , 429-436 . アボック社 .

久保田秀夫 (1972) 帰化植物 栃木県の動物と植物 , 127-137 . 栃木県の動物と植物編纂委員会 .

久保田秀夫・松田行雄・波田善夫 (1978) 日光戦場ヶ原の植物 . 栃木県林務観光部環境観光課 .